

日本ゴム協会の賞制度について

日本ゴム協会は、日本ゴム協会賞、ゴム技術進歩賞、優秀論文賞、ゴム技術功績賞、オーエンスレーガー賞、科学技術奨励賞、CERI若手奨励賞、ブリヂストンソフトマテリアルフロンティア賞の各賞を設け、会員の優れた業績を表彰しています。ここに、改めて各賞の設定経緯をまとめました。また、年次大会研究発表会とエラストマー討論会では若手優秀発表賞・英語優秀発表賞・ポスター優秀発表賞やCERI最優秀発表論文賞の表彰も行っております。

日本ゴム協会賞

本会創立60周年を記念して、ゴムならびにその周辺領域における科学、技術又はその産業分野の発展に寄与し、その功績著大な会員に対し、毎年2件以内を授与する。

毎年11月30日までに会員、各支部、関連学協会代表者から推薦いただき、委員会において選考する。

ゴム技術進歩賞

本会創立15周年を記念して、ゴム技術の進歩発展に寄与するため設定されたもので、原則として毎年1件ゴム技術に関する研究課題について優秀な成績を示したのに対し授与する。

毎年、協会誌9月号会告に研究課題を発表し、応募締切を翌年1月末日として2月中旬、試験審査を行う。

優秀論文賞

本会創立25周年を記念して、ゴム科学および技術の発展と協会誌の充実を図るために設定されたもので、原則として毎年、協会誌に過去3年間に発表された研究論文のうちから優秀と認められたもの2件以内を選び授与する。

受賞候補者は、委員会において選考する。

ゴム技術功績賞

本会創立35周年を記念して、本会会員の中からゴムおよびプラスチック工業に関連する生産技術の向上に顕著な功績のあったものに対し、2020年度よりゴム技術功績賞に変更して毎年2件以内を授与する。

受賞候補者は、毎年11月30日までに会員の中から推薦されたものについて委員会において選考する。

オーエンスレーガー賞

1957年米国ゴム工業の権威者・故オーエンスレーガー氏を記念するため、同未亡人が日本ゴム協会を通じて日本化学会に寄附した基金によって日本化学会および本会の合同の賞として設立された。ゴムに関連する学術および工業に貢献する貴重な研究、又は顕著な業績のあったものに対し、隔年1件以内を授与する。

受賞候補者は、授与される前年の11月30日までに会員、各支部、関連学協会代表者から推薦いただき、委員会において選考する。

(1997年度から日本ゴム協会単独の賞となった)

日本ゴム協会科学技術奨励賞

本会創立50周年を記念して、ゴムおよびプラスチックに関連する科学および技術の進歩発展に寄与する研究または調査を行っている本会会員を中心とした研究調査集団または会員個人に対し、隔年で100万円を上限として日本ゴム協会科学技術奨励金の贈呈を行ってきた。2007年に財団法人化学物質評価研究機構から若手を対象とする奨励制度の申し出があり、本会としても従来の科学技術奨励金を見直し、2008年から科学技術奨励賞として毎年1件以内を授与することを決定した。

受賞候補者は毎年11月30日までに推薦または申請されたものについて委員会において選考する。

CERI若手奨励賞

2007年に財団法人化学物質評価研究機構から若手を対象とする奨励制度の申し出があり、ゴムおよびプラスチックの評価・加工等の科学技術の進歩に寄与する若手研究者(会員)に毎年1件以内を授与することとした。

受賞候補者は毎年11月30日までに推薦または申請されたものについて委員会において選考する。

ブリヂストンソフトマテリアルフロンティア賞

本会創立80周年にあたり、株式会社ブリヂストンから若手研究者の奨励を目的とする懸賞制度の申し出があり、ゴム技術・ゴム産業の発展を期し、ゴム研究者の拡大と育成を図ることを目的として、ゴムおよび将来ゴム技術・ゴム産業に貢献しうる関連分野での先端的研究を奨励し、若手研究者(会員に限定しない)にフロンティア賞は毎年1件以内、奨励賞は毎年2件以内を授与することとした。

受賞候補者は毎年11月30日までに推薦または申請されたものについて委員会において選考する。